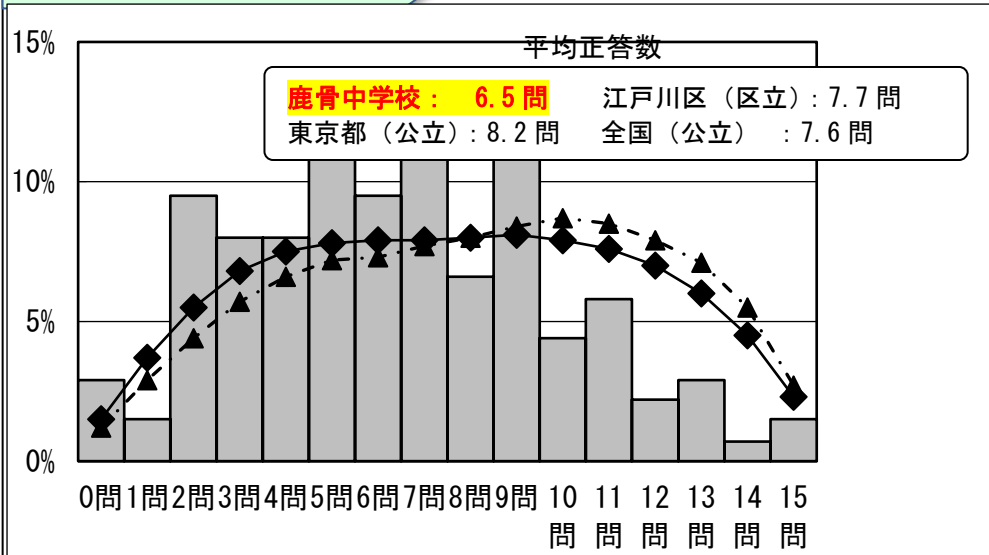


令和5年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【数学】鹿骨中学校

正答数分布



<四分位における割合(都全体の四分位による)>

上位

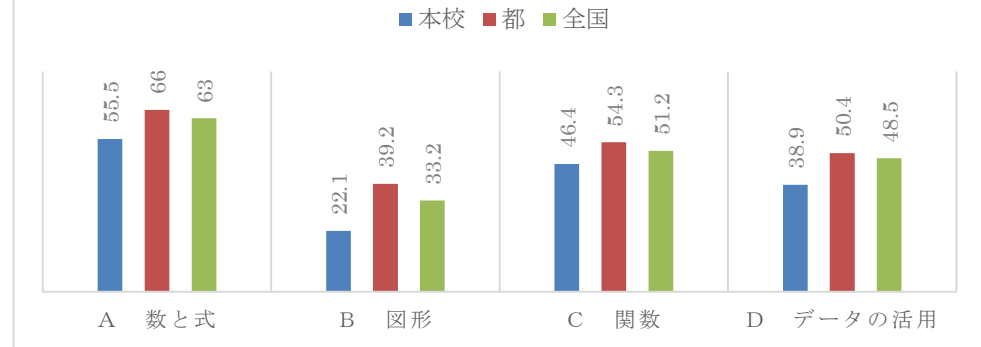
下位

数 学	A層 11~15問	B層 8~10問	C層 5~7問	D層 0~4問
鹿骨中学校	14.1	23.4	33.6	29.9
江戸川区(区立)	26.4	26.4	24.5	22.7
東京都(公立)	31.7	25.1	22.2	21.0
全国(公立)	27.4	24.0	23.6	25.0

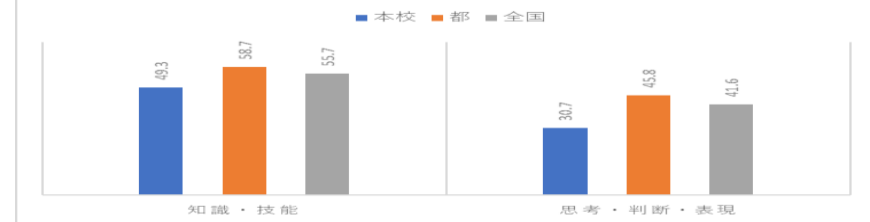
四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、生徒数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって生徒をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の生徒の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

「領域別」の結果

学習指導要領の領域



評価の観点



【平均正答率の差】

鹿骨中学校	43%
江戸川区(区立)	51%
東京都(公立)	54%
全国(公立)	51.0%
都との差	11ポイント

【分析結果と授業改善に向けて】

都平均より11ポイント下回った。特に「図形」にかかわる問題が17.1ポイントと大きく下回っている。図形の定義などを理解し、証明にかかわる問題に関して苦手であることが分かった。個で考える時間を増やすとともに、対話的な学習活動を重視し、生徒が主体的に取り組む授業の充実を図る。生徒が「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」「何を学んだのか」をわかる授業を行い、数学的用語の意味や基本的な図形の性質等、基盤となる知識を確実に定着させる。

%